

- ・大阪市在宅医療・介護連携相談支援室の活動報告会があり、東淀川区の活動を報告しました。243 名もの参加者がありました。

大阪市在宅医療・介護連携推進事業報告会

東淀川区

「日常生活療養に関わる多職種連携」

東淀川区在宅医療・介護連携相談支援室
コーディネーター 中島 ひとみ

1. 多職種の現状把握

- 医師・歯科医師、看護師、薬剤師、介護士、福祉士、訪問看護師への現状把握
- 医師会が提供する医師情報「ドクター」、訪問看護ステーションが提供する訪問看護マップ、かかりつけ医師情報マップの活用状況
- 訪問看護ステーション連絡会の活用状況
- 在宅医療（医師・歯科医師）の現状把握
- 医師会が中心となり訪問看護ネットワークに注力

2. アンケート調査の実施

目的：東淀川区における医療・介護連携課題の抽出

対象者：医療関係者（医師会会員・歯科・薬剤師・訪問看護ステーション・病院地域連携室）

介護関係者（ケアマネジャー・地域包括・訪問介護・介護施設）

3. 職種別のまとめ

医療関係者

- 開業医**
 - 24時間365日対応の負担感
 - 患者の急変時対応へのバックアップの確保が重要
 - ケアマネの医療に対する知識不足
- 訪問看護師**
 - 在宅での重労働の方となっている方が、緊急時対応される
 - 研修等の実施が難しい
 - 所属性医師を呼び出す
- 訪問介護士**
 - 研修が十分でない
 - 病院スタッフに医療連携への理解が乏しい
 - 医師訪問研修との連携が十分でない
- 地域連携室**
 - 遠隔問診システムに医師の参加が少ない
 - 有償でのACPについての関心が高い

介護関係者

- ケアマネジャー**
 - 医師に対して敬意が深い
 - 医師の生活の考えが深い
 - 介護保険制度についての知識不足
- 訪問介護**
 - 連携サービスに理解が深い
 - ヘルパーの業務を理解していない
 - カンパニッシュで専門用語が出て、わからない
- 地域包括・プランナー**
 - 成年後見制度等についての医師の知識不足
 - 病院医師・看護士との連携がとりこなし
 - 認知症のある方の入院先に入れが困難
- 介護施設**
 - 連携・介護連携が十分でない
 - 施設が対応できる医療機関への理解が乏しい
 - 施設医士の横のつながりが少ない

アンケートから見てきたこと

- ・連携不足
- ・他職種間の相互理解不足
- ・知識不足
- ・情報共有ができていない

東淀川区医師会の取組み

区内の医療介護関係者向けに研修会や講演会を実施

4. とりくみ

1) 多職種連携のための研修会 (お互いの職種に対する理解)

- 在宅医療連携研修会(対象: 医師会員・多職種)
- 東淀川区在宅医療連携推進事業の会(対象: 多職種・区役所・他職)
- 訪問看護支援事業推進と訪問看護研修(対象: 医師会員・ケアマネジャー)
- 介護職のための在宅医療連携研修会(対象: ヘルパー・ケアマネジャー)
- 医師会・薬剤師会・訪問看護ステーション合同研修会
- 在宅医療支援事業推進・訪問看護ステーション合同研修会の開催(訪問看護ステーション合同研修会)

2) 地域包括ケアシステム構築に向けた協議会 (連携体制の構築)

- 在宅医療連携協議会
- 地域医療連携推進委員会(対象: 医師会・多職種・区役所)
- 関係者による在宅医療連携推進協議会(医師会・多職種・訪問看護ステーション)
- 地域医療連携推進委員会(医師会・多職種・訪問看護ステーション)
- 地域医療連携推進委員会(対象: 地域連携室・訪問看護)
- 保健師と訪問看護士の意見交換会

3) 在宅医を増やすための研修会

① 同行訪問研修

内容: 見学「訪問時のお悩み」「在宅医療での薬の使い方」

同行訪問: フェイバー医師 4名
同行訪問研修: 2名

4) 区民啓発のための講演会等

① こぶしネット市民公開講座 ② 広報「ひがしよどわ」への掲載